

ピーマン複合病害抵抗性台木品種「みやざき台木5号」の育成

薬培養技術の利用で育成期間を短縮

背景・目的

- 本県では、ピーマンの土壌病虫害である青枯病(図1)、疫病、ピーマン微斑モザイクウイルス病(PMMoV)、ネクトリア立枯病、ネコブセンチュウ被害(図2)が大きな問題となっております。
- このため、これら複数の土壌病虫害に対する**抵抗性台木を育成し**、接ぎ木栽培(図3)によるピーマンの安定生産に寄与することを目的とした研究に取り組みました。



図1 青枯病による枯死



図2 ネコブセンチュウ被害(生育不良と根こぶ)

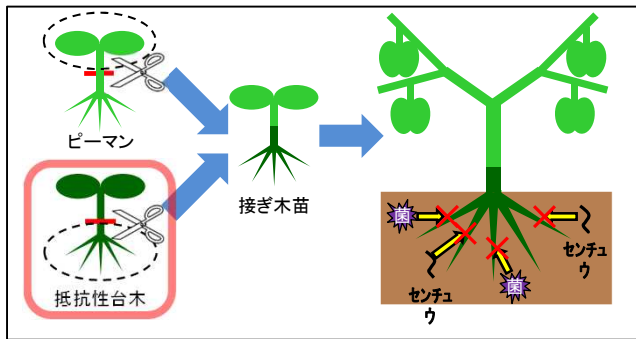


図3 接ぎ木栽培による土壌病虫害回避のイメージ

成果の内容

- **薬培養**を用いた手法の開発により、親系統の育成に通常5年かかるところを、**最短2年**に短縮しました(図4)
- 育成した親系統を両親に用いて、青枯病・疫病・PMMoV抵抗性のF1品種「**みやざき台木5号**」を育成しました(図4、図5)
- 「みやざき台木5号」を用いた接ぎ木栽培において、通常の栽培と同等の収量を得ることができました。

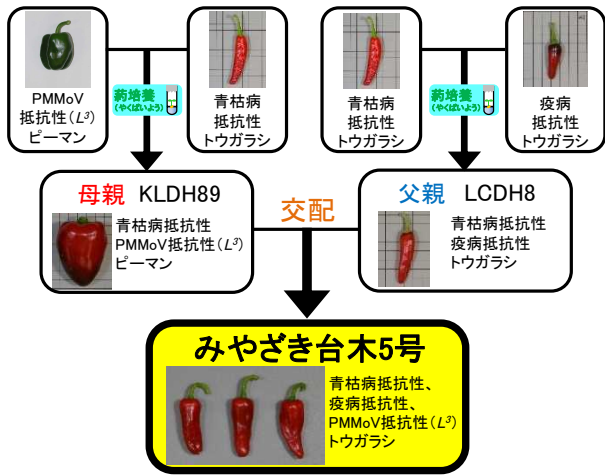


図4 みやざき台木5号の育成系統図

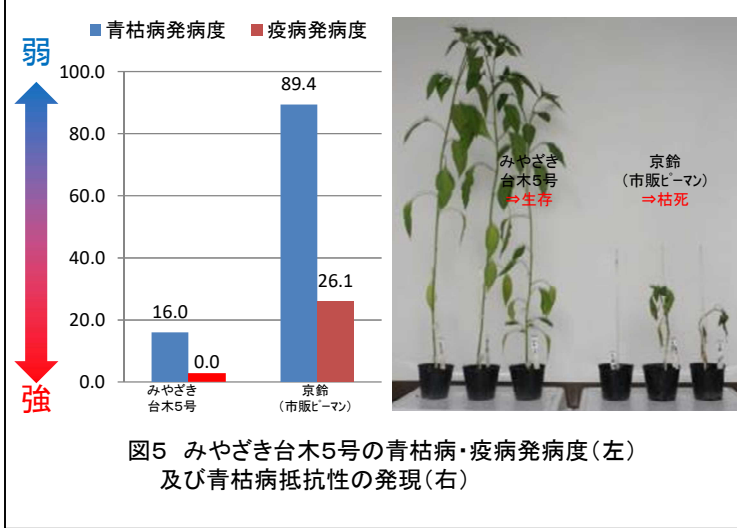


図5 みやざき台木5号の青枯病・疫病発病度(左)及び青枯病抵抗性の発現(右)

成果の活用方法(又は期待される効果)

- 平成28年に種苗登録申請を実施しました。(品種登録出願: 第31435号、平成28年9月8日)
- 平成30年度は約19ha分の種子を供給予定です。(県下ピーマン接ぎ木栽培面積約90ha)
- (公社)宮崎県バイオテクノロジー種苗増殖センターにおいて、種苗増産を進め、生産現場への普及拡大を進めます。
- 青枯病・疫病・PMMoV抵抗性のほか、ネクトリア立枯病・ネコブセンチュウへの抵抗性も有する、より幅広い土壌病虫害に対応した台木を育成します。

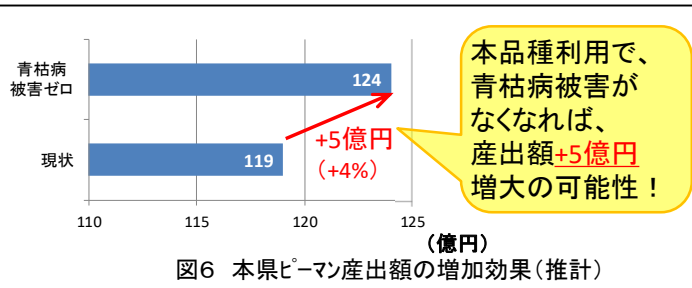


図6 本県ピーマン産出額の増加効果(推計)

本品種利用で、青枯病被害がなくなれば、産出額**+5億円**増大の可能性！

留意点